

かなり効いているように考えられる。

§ 4 この項むすび

以上の調査でわかった点をひろいあげてみるとつぎのようである。

- (イ) 飯塚の煤煙は暖房期に多く夏に少くなっておりその出現頻度は各月とも似た処が多い。
- (ロ) 煤煙の日変化はかなり顕著であって未明頃に最も多くなり最高気温の現れる頃に最も少くなる。
- (ハ) 煤煙の日変化は日照時数に比例する。

参 考 文 献

Wright, H. L. 1932 : Observation of Smoke Particles and Condensation Nuclei at Kew Observatory, Geophys. Mem., No. 57.

伊東 彊自, 1938 : 大阪市及其附近で観測された煙粒子について, 海と空, 18, 6.

伊東 彊自, 1938 : Aitken 計塵計に関する二三の問題, 海と空, 18, 11.

三宅 恒夫, 1938 : 濾塵計の製作 (第1報, 海と空, 18, 11.

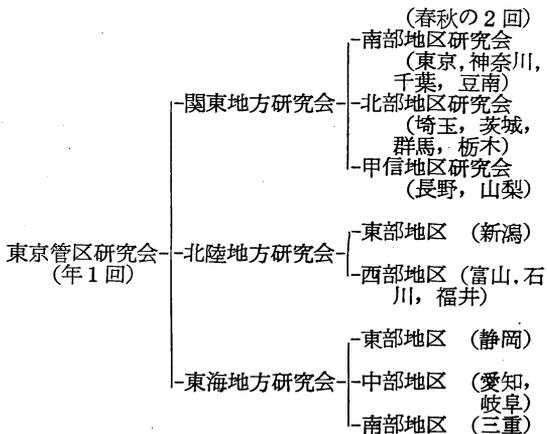
関東地区だより

本年度東京管区気象研究会は10月10, 11日の両日, 指導官として気象庁肥沼予報部長を迎え, 松本市外浅間温泉で開かれた。

本年度の特徴としては, 例年発表論文が20以上となり, 時間的制約を受けて十分な討論も出来なかったので, 今年は総数を15とし質疑応答にかなりの時間をかけたこと, 水文調査関係の論文の大部分を10月下旬開催の水理気象検討会に廻わしたことである。また各地区研究会では当然管区研究会に発表出来るような有益な面白い発表が相当数あったが, 時間の関係でかつあいしたのも少くない。

内容は別記のとおり地方官署が日常業務を遂行するために必要な調査が大部分であり, 従って予報に関するものが最も多く (雨量予報に関するものも含む) 最近問題となりつつある波浪についての発表も行われた。肥沼予報部長は「予報に関する今後の問題」と題され約1時間にわたり現在までの予報業務の進歩して来た足どりと今後の在り方についての包負を述べられた。

東京管区気象台における研究会の組織は下記の如く管区を関東, 北陸, 東海の3地方に分けて各地方研究会



(なお現在は地方研究会は開催していない。)

を, 更にこれを2~3のブロックに分けて地区研究会をそれぞれ設けている。地区研究会は原則として春秋2回各測候所の持廻りで研究会を開催し地区の世話役として地区研究委員を1名づつ置き研究会長 (管区技術部長および地方気象台長) が指導するようになっている。管区研究会は年に1回各地方の持廻りで (去年は東海, 本年

は関東, 来年は北陸) 開催し春秋2回の地区研究会で発表した論文の中から予め定められた研究主題に基づいて地方研究会長の推選により管区研究会長 (管区台長) が決定したものを発表することになっている。管区研究会で発表した論文の中から適当なものがあれば更に他の研究発表機関に発表されることもあり, これは別に地区及び管区研究会を経ないで直接個人的に学会などに発表する場合もある。同一の論文が一年間に何回も各地で発表され, 色々な雑誌に出ているものもあれば, 可成り面白い論文が何処かで1回位発表されたまま, 印刷にもならず終ってしまうことのないように, 管区研究会, 研究所研究会, 気象学会, および各種研究発表機関などとの有機的関連, および業務的研究と academic な研究とのつながり, 発表方法などについて検討されることを望みたい。(花沢)

31年度東京管区気象研究会. 発表論文

- | 演題 | 官署 | 氏名 |
|------------------------------------|-----------|--------|
| (1) 台風12号によって起きたうねりについて | (横 浜) | 磯崎 一郎 |
| (2) 日本海の波浪について | (イ) (伏 木) | 田口 竜雄 |
| | (ロ) (新 潟) | 星野 常雄 |
| (3) Clear air turbulence の光学的観測の試み | (筑波山) | 大越 延夫 |
| (4) 山梨県における季節風の予報について | (甲 府) | 田中 源造 |
| (5) 北陸フェーンの調査 (富 山) | | 柴崎 健一 |
| (6) 地形効果を効慮した三重県の年別, 月別雨量 | (津) | 鳥田 義一 |
| (7) 雨量予報について | (名 古屋) | 中村 宇一郎 |
| (8) 地形と降水について | (横 浜) | 箕輪 年雄 |
| (9) 大井川流域の雨量予報について | (静 岡) | 小楠 純一 |

(特別講演)

- | 演題 | 指導官 | 氏名 |
|------------------------|--------|--------|
| 予報に関する今後の問題 | (指導官) | 肥沼 寛一 |
| (10) 強雨雪の出現時について | (長 野) | 宮沢 清治 |
| (11) 空電観測の予報への利用について | (名 古屋) | 島川 甲子三 |
| (12) エストークの方法の試験結果について | (新 潟) | 山岸 孝次郎 |
| (13) 高々度天気図解析 (羽 田) | | 杉本 豊 |
| (14) 渦度南北分布の変動と寒波 | (東 京) | 片山 昭 |
| | | 以 上 |